寿岳文章 人と仕事展

2021（令和3）年1月23日（土）～3月14日（日）

寿岳文章(1985年頃)

妻静子と書斎にて(1933年)

向日庵の書斎

向日庵(京都府向日市)

向日庵の座敷

［表面写真説明］
上：『無染の歌』1933年
下：『キルヤム・ブレイク書誌』1929年、『セルの書』1933年、『願はくは』1935年、『絵本どんきほうて』1936年、『紙漉村旅日記』1943年、柳宗悦書簡1959年

寿岳文章（1900～92）は、兵庫県明石郡押部谷村（現在の神戸市西区）の寺に生まれ、関西学院高等学部や京都大学で学んだ英文学者で、英国詩人ブレイクの研究やダンテ『神曲』の翻訳で知られています。

早くから書物に関心を寄せていた文章は、1932（昭和7）年から、妻 静子と2人の手で私版本をつくり、“向日庵"の名で世に送り出し始めます。翌年6月には住み慣れた京都市内から、南西郊外の鉄道沿線に開発された西向日町住宅地に新居“向日庵"を構えます。やがて夫妻はこの家を拠点に、当時衰退しつつあった全国の手漉き紙産地を行脚して調査し、和紙研究のパイオニアとして、大きな業績を残しました。

恩師であり紙の研究へと導いたのは『広辞苑』編著者の新村出、ブレイク研究と書物の美を追求する先達は、民芸運動の創始者といわれる柳宗悦でした。文章は、民芸の同人や和紙研究会の仲間らと親交を結びながら、英文学・書物の研究と和紙復興に尽力し、また英語を駆使して日本文化を世界に紹介し、東西交流につとめました。さらに求められ新聞・雑誌等に意見を発表してオピニオンリーダーの役割を果たし、生涯を通して現実の社会とかかわりを持ち影響を及ぼしました。

本展では、寿岳文章の思索と実践を生んだ暮らしの場である向日庵に保管されていた書物や資料を展示し、現代へのメッセージを探ります。

■ 記念講演会　Ⅰ・Ⅱとも定員40名

Ⅰ　2月7日(日)　午後2時～4時
「寿岳文章の軌跡 －新資料を中心に－」
講師 中島俊郎氏　（甲南大学名誉教授）

Ⅱ　3月7日(日)　午後2時～4時
「寿岳文章と向日庵本の時代」
講師 高木博志氏　（京都大学人文科学研究所教授）

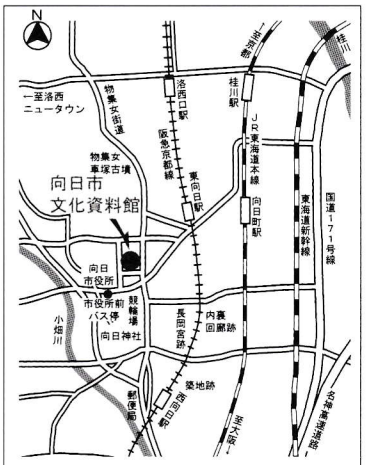
■ 和紙ワークショップ　Ⅲは定員5名、Ⅳは定員16名

Ⅲ　1月31日(日)　午後2時～3時30分「楮の変化をたどる」
指導：原田紗知氏　（紙ノ余白代表・NPO法人向日庵正会員）

Ⅳ　3月14日(日)　午後2時～3時30分「紙漉き体験 －植物が紙になる－」
指導：田村正氏　（京都工芸繊維大学非常勤講師・NPO法人向日庵理事）

会場 向日市文化資料館研修室（展示会場の2階）

◇Ⅰ～Ⅳはいずれも参加無料、事前申込みが必要。申込みは1月23日(土)から受付開始。直接または電話075(931)1182で文化資料館（開館日の午前10時～午後6時）へ。定員に達し次第締め切ります。手話通訳をご希望の方は、開催日の2週間前までにお申し込みください。



主催
寿岳文章人と仕事展実行委員会
向日市

共催
特定非営利活動法人向日庵

文化庁

令和2年度
文化芸術創造拠点形成事業

向日市文化資料館

開館時間　午前10時～午後6時（入館は午後5時30分まで）
期間中の休館日　毎週月曜日、2月2日（火）、3月2日（火）

617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内 40-1　（阪急東向日駅より徒歩8分・JR向日町駅より徒歩15分）
phone 075(931)1182・fax 075(931)1121　http://www.city.muko.kyoto.jp/kurashi/bunka/

＊新型コロナウイルス感染拡大防止のため、発熱などの症状がある方はご来館をご遠慮ください。また、ご来館の節はマスクの着用をお願いします。